



手作りペットと一緒にお客さん役を楽しむ。



来店したお客さんとの会話・やりとりが楽しい。「たこ焼きください。」「たこ焼きどうぞ。」「本物みたいだね。」



「お腹すいたなあ。」「配達をお願い、されていますよー。」デリバリーのお店屋さんが登場。



トウモロコシ店のお客さんが減ってくる、移動販売を始める。



「温かいのが欲しいんですけど。」保育者が注文すると、回して焼き始めるA児。

CASE 49

3歳児



「いらっしやいませ。」「おいしい！トウモロコシです。」

協力園(別府市) 学校法人 別府大学 明星幼稚園

(これまでの経緯)

幼稚園では年長組が、秋に木の葉や木の葉を使って飾り物やゲームを作ってお店を出しました。3歳児年少組は、招待を受けて一緒に遊ぶ中で、年長組の様子に「かっこいい！」と憧れていました。その後、自分たちもドングリを使った飾りを作り始め、保育室内で売り買いする数人の子どもの姿がありました。

お正月には、家族と初詣に出かけて参道の出店を見たり、綿菓子を買ったりした子もいました。3学期が始まり、冬休みの話題になると、保育者や友達に出店の話を伝え、お店の人の仕草やかけ声を真似して楽しむ姿が見られました。

3学期が始まって1週間、お店の話を輝かせる子ども達も、実際に品物を使ってお店のやり取りを楽しめるように、保育者は、「お店で売れる物、作ってみる？」と呼びかけ、商品を作る環境を準備しました。すぐにトウモロコシ、たこ焼き、綿菓子、りんご飴、ポップコーン、ポテトなどの商品作りが始まりました。お店の人はエプロンをしてるよ。帽子も被ってた。と服装に着目した子は、帽子やエプロンのアイテムの制作にも取りかかりました。

商品ができたからお店の開店です。トウモロコシ屋さんだからトウモロコシの絵を描こう。と帽子にトウモロコシの絵を描いたA児が店番をしています。初めは、お店屋さんになりたい子が多く、保育者がお客さんになりました。A児：いらっしやいませ。保育者：トウモロコシください。寒いので温かいのが欲しいんですけど。

A児：ちよつと待ってください。そう言うなり、A児は、トウモロコシの茎を持ってコンロに見立てた箱の上でクルクル回し始めます。焼いて温めているようです。2、3回回すと、「はい、できました。どうぞ」とお客さんの保育者に渡し、店員になりきった口調で「ありがとうございます。どうぞ」とお礼を言います。お客さんは、「温かくておいしい。モグモグモグ。」と温めてくれたお礼を伝えながら食べる真似をします。しばらくして、トウモロコシ屋さんは、店員がA児からB児に交代しました。お客さんは、隣のたこ焼き屋さんに移り、トウモロコシ屋さんの前には誰もいなくなっています。B児は、少しの間、お客さんを待ちましたが、売れないと分かったのか、持ち運び用の箱にトウモロコシを入れて、「おいしい！トウモロコシです。」と移動販売を始めます。B児の声かけに思わず買ってしまってお客さん。完売すると「全部売れた！」と近くの保育者に伝え、嬉しそうな表情を浮かべます。

隣の遊び場では、数人の友達がプリンカップを高く積んでいます。遊びが一区切りつくと、「お腹すいたなあ。先生、お店屋さんで買って来て。」と保育者に声をかけます。それを聞いた保育者が「お店屋さん。配達をお願い、されていますよー。」と呼びかけると、「何がいますか？」とお店の子どもたちからの声が返ってきます。出前配達には、「トウモロコシ」「たこ焼き」「ポテト」の注文があり、お店屋さんのC児は、商品を移動用の箱に入れて届けることにしました。配達先では「はい、ポテトとトウモロコシ、たこ焼きです。おいしいですよ。」「ありがとうございます。」と、デリバリーの売り方も経験しました。

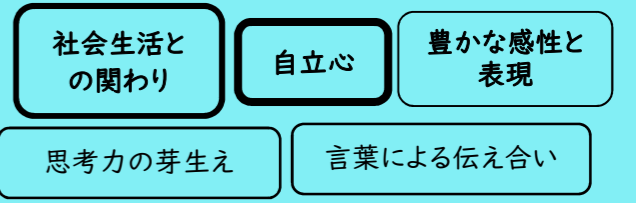
隣の保育室で買い物をしたり、年中組さんを招待したりしてお店屋さんを楽しんできた2月末。保育者は、園行事のため来園者があることを伝えようと「明日、幼稚園にお客さんが来られます。」と言いました。来客の話聞いた子どもたちから、すぐに「買ったあー！」「何が買ってくれるかな？」と期待する声が上がります。園行事の来園者(評議員会への出席)として紹介したお客さんをお店のお客さんと受け取ったようです。保育者は、「大人のお客さんにもお店の商品を売りたい、という子どもたちの気持ちを尊重し、園長先生に「保育参観時には、お店屋さんで買物をしてほしい」ことをお願いしました。当日、4人の評議員さんは、子どもたちの願いどおりにお客さんになって来店しました。

子ども：いらっしやいませ。 お客：どれもおいしいですか？ 子ども：全部おいしいですよ。 お客：たこ焼きがおいしそうですね。たこ焼きください。 子ども：たこ焼きどうぞ。熱いから、これ(フォーク)を使ってください。 子どもたちは、大人のお客さんに商品売り、「たこ焼き、本物みたいだね。」とやって作ったの？と聞かれて、新聞紙を丸めたこと、緑色の色紙を小さくして青のりを作ったことを伝えました。

お店屋さんを始めると、お店の人になって「いらっしやいませ」「また、どうぞ」と、言葉のやり取りが楽しいようでしたが、最近はお客さんを楽しむ姿が増えてきました。子どもたちが「テラス」と呼び合うテーブル席では、女の子たちが食事中です。その足元にはペットが休んでいます。ペットは、飼い主(連れてくる本人)が、ビニール袋を膨らませて体を作り、目や鼻、口、ひげを貼り、散歩用のリードも付けてあります。「〇ちゃんもどうぞ」と、ペットにポテトを食べさせる姿も見られます。

約2か月ほど続くお店やさんの遊び。役を代わったり、いろいろな立場のお客さんに接したりして、子どもたちはたくさん体験を重ねてきました。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」



身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

事例に見られる「10の姿」の育ち

温かいトウモロコシを注文されて焼いて焼いて温めるA児や、移動販売を考えたB児、品物を落とさず届けるように箱に入れてデリバリー配達を考えたC児たち。自分で考え、工夫して販売し、お客さんからの感謝の言葉や完売したことに達成感を感じ、さらに自信をもって、お客さんに「いらっしやいませ」と声をかける姿が見られる。 また、自分でペットを作り、散歩や食事に連れ歩く子どもたちの姿もあり、名前を呼んで食事をさせるなど、自分らしい買い物を楽しめるよう工夫する姿も見られる。 このような体験の積み重ねは、身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中、信頼する保育者に支えられながら、自分の力でやろうとする気持ちをもったり、やり遂げた満足感を味わったりするようになる。5歳児の姿につながると思える。

事例に見られる「10の姿」の育ち

子どもたちは、年長組の店や初詣の出店の店員の応対、仕草、身なりなどを見聞きしたことから憧れや面白さを感じ、お店を再現したくなった。園内や地域で見聞きしたことを遊びに取り入れ、威勢よく「いらっしやいませ」と声をかけたり、エプロンや帽子の衣装を真似して、お店屋さんを楽しんだりする姿が見られる。 保育者が来園者の紹介をした日、子どもたちは「何か、買ってくれるかな？」と期待をもつ。当日は、お客さんの来店が実現する中、品物の売り買いをしたり「本物みたいだね。」とき具合をほめてもらったりして、地域の方と親しむ機会になった。 このような体験は、地域の身近な人々や出来事と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えたり行動し、地域に親しむをもつようになる。5歳児の姿につながると思える。

自立心 保育者の援助と環境構成のポイント ○遊びの場の環境構成(お店の準備のため) ・子どもが選んで作成する材料の準備 各種用紙、ビニール、花紙、新聞紙、卵パック 各種箱、紐類、テープ、厚紙、マーカー等 ○保育者の援助 ・共同作業(お客さんになって買物をする) ・目的が達成した時の賞賛する言葉かけ ・やりたい遊びを尊重する保育者の受け止めや見守り。子ども同士の遊びをつなぐ声かけ ・子どもの思いが生かされる園行事の調整 ○同じ遊びを楽しんだり、気持ちが通い合ったりする友達の存在